



佐賀県には国の重要無形民俗文化財に指定された「唐津くんち」をはじめ、さまざまな祭りや伝統芸能が現代でも行われています。多くが、豊作祈願や収穫を感謝する庶民の行事として伝えられてきました。



唐津くんち御旅所 祭りのクライマックスでは1番曳山「赤獅子」を先頭に、市内を巡

唐津くんち

「くんち」(おくんち)は、旧暦9月9日の重陽の節句のころ、九州北部で行われてきた秋の収穫祭を指します。「九日」・「御九日」あるいは「供日」・「御供日」が祭りの名前の語源と言われています。各地の「くんち」では、御神体が神輿などに乗って、「御旅所」と呼



(唐津市提供)

行した曳山が次々と御旅所へ曳きこまれます。

ばれる目的地まで移動する「御神幸」が行われます。その目的地である「御旅所」までは、大名行列や稚児行列、曳山、山笠などに囃子、踊り、獅子舞などが加わりますが、地域ごとに内容は異なっています。

佐賀県を代表する「唐津くんち」は、11月2日から4日の唐津神社の秋の例大祭に行われます。豪華な曳山が、笛・太鼓・鐘の囃子にあわせ、曳子たちの「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声とともに、唐津市

COLUMN

趣向を凝らした14台の曳山

「唐津くんち」の曳山は各町内が運営し、赤獅子(刀町)、青獅子(中町)、亀と浦島太郎(材木町)、九郎判官源義経の兜(呉服町)、鯛(魚屋町)、鳳凰丸(大石町)、飛龍(新町)、金獅子(本町)、武田信玄の兜(木綿町)、上杉謙信の兜(平野町)、酒吞童子と源頼光の兜(米屋町)、珠取獅子(京町)、鯨(水主町)、七宝丸(江川町)が伝えられています。明治中期までは黒獅子(紺屋町)もありました。

内の旧城下町を巡ります。

「唐津くんち」に曳山が登場するようになったのは、1819(文政2)年に一番曳山の「赤獅子」が奉納されてからのことです。曳山は、木組み等の上に和紙を一閑張りで貼り重ね、漆を塗ったもので、江戸時代から明治時代にかけて製作されました。現在、曳山は全部で14台あります。

これらの曳山は、佐賀県の有形民俗文化財としても指定されています。さらに、2016(平成28)年には「唐津くんちの曳山行事」を含む「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

伊万里トンテントン

「喧嘩祭り」として知られる「伊万里トンテントン」は、伊万里市の伊万里神社の御神幸祭で伊万里供日とも呼ばれ、毎年10月下旬の3日間、行われます。荒御輿と団車が市内各所で激しくぶつかり合う勇壮さが見所で、祭りの名前は、太鼓の「トン・テン・トン」の音からきています。

最終日に行われる「川落とし」では、荒神輿と団車を組み合わせたまま伊万里川に落として、陸に早く引き上げた方が勝ちとなります。荒神輿が勝つと豊作、団車が勝てば大漁になると言い伝えられています。

県内各地に残る民俗芸能「浮立」

「浮立」は、佐賀県を中心に行われる伝統的な民俗芸能です。語源は平安末期にはじまる「風流」です。元来、祭礼の行列の華やかな飾りつけを

国指定 重要無形民俗文化財(佐賀県)

たけ お 雄 の 荒 踊 (武雄市朝日町 / 東川豊町 / 西川豊町)	風俗慣習
から つ 唐津くんちの曳山行事 (唐津市)	風俗慣習
たけがきかん 竹崎観世音寺修正会鬼祭 (藤津郡太良町)	民俗芸能
しら ひげ 白鬚神社の田楽 (佐賀市久保泉町)	民俗芸能
み し ま 見島のカセドリ (佐賀市鎌池町)	風俗芸能
よぶ こ おお つな ひ き 呼子の大綱引き (唐津市呼子)	風俗芸能



伊万里トンテントン (伊万里市)

神輿と団車が市内各所で激しくぶつかり合う勇壮さが特徴の祭です。

「風流」と呼んでいました。それが神社の秋の収穫祭と結びついて、佐賀地方では「浮立」と呼ばれる舞や踊りとして芸能化し、継承されてきました。

各地で、鬼面をつけたり仮装したりして、鉦、太鼓、笛の囃子にあわせて踊りが奉納されます。

よく知られた佐賀の「浮立」の一つに「天衝舞浮立」があります。もともとは雨乞いのために行わ



母ヶ浦の面浮立 (鹿島市七浦)

鎮守神社の秋祭に奉納されている面浮立で、県指定の重要無形民俗文化財です。



市川の天衝舞浮立 (香月清氏提供)
「てんつく」と呼ばれる大きな被り物を着けて、秋祭り
で奉納されます。

れたものですが、現在では秋の祭礼で奉納されるようになりました。また、藤津地方(鹿島市、嬉野市、太良町)などには、鬼の面をかぶって勇壮に踊る「面浮立」が伝えられています。県内には他にも、有明海沿岸部には「鉦浮立」や「太鼓浮立」、伊万里市や武雄市

には演劇的な要素を取り込んだ「舞浮立」などが継承されています。いずれも、昔から稲作が盛んだった佐賀で、人々が神社に豊作を願い、そして収穫への感謝の気持ちを込めて奉納してきました。

その他、佐賀には、神崎市仁比山神社の「御田舞」、佐賀市白鬚神社の「田楽」、神崎市高志神社の「高志狂言」など、貴重な民俗芸能が伝えられています。一方、継承者不足によって途絶えようとしている民俗芸能もあります。もう一度、地域の祭りに目を向けて考えてみましょう。

学校の取組

【全国にたった2校】

北陵高等学校
バルーン部
バルーン部は全国に2校しかありません。佐賀バルーンフェスタ等の大会にも参加し、日々佐賀の空でフライトしています。



仁比山神社(神崎市)御田舞 (香月清氏提供)
12年に1度、申の年に豊稔を祈願する祭りです。「大御田祭」とも呼ばれます。



白鬚神社(佐賀市)田楽 (香月清氏提供)
子どもが演じることから「稚児田楽」とも呼ばれます。



高志神社(神崎市)高志狂言 (香月清氏提供)
幕府に認められた鷺流狂言の流れを受け継いでいます。

調べて書いてみよう!

身近な地域のお祭りはどんなものがあるでしょうか。調べて書き込んでみましょう。



出かけてみよう!



唐津曳山展示場 (唐津市西城内 6-33)

唐津くんちで使われる曳山が展示されています。
TEL 0955-73-4361 / 休館日 11月3日・4日、12月第一火・水曜日、12月29~31日 / 開館 9:00~17:00

(佐賀県文化財課提供)



検索してみよう!

さが祭時記まつりびと

佐賀県の文化財

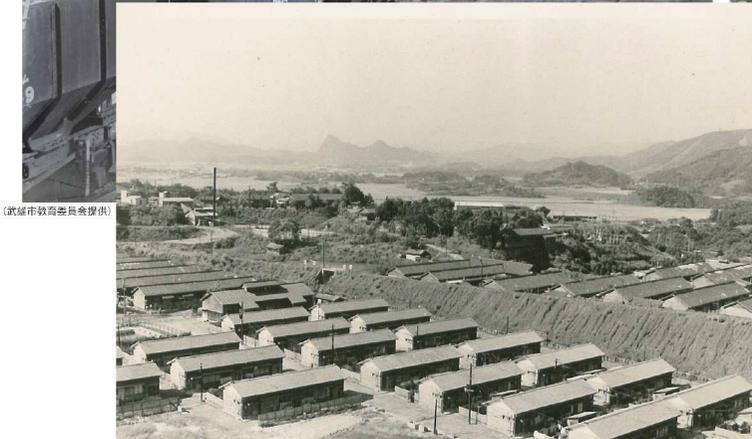


唐津・杵島の石炭産業

経済の発展を支えた炭鉱の賑わい



明治時代の近代化と第二次世界大戦後の復興を支えた主要エネルギーが石炭です。佐賀にも多くの炭鉱があり、当時の日本経済を支えました。



杵島・西杵炭鉱 武雄市北方町には杵島炭鉱がありました。のちに、

産業革命を支え、世界を変えた石炭

18世紀後半にイギリスで起こった**産業革命**は、世界を大きく変えました。その原動力となったエネルギー資源が**石炭**です。**蒸気機関**が発明され、工場の動力や蒸気機関車・蒸気船などの燃料として、石炭が注目されることになりました。これにより、工業

調べてみよう？
石炭はどんな風に使われたんだろう？



(武雄市教育委員会提供)



(武雄市教育委員会提供)

その一部が明治鉱業の西杵炭鉱になりました。



(フリー素材)

石炭 近代になり蒸気機関やストーブの燃料として使われてきた石炭。現代も、発電のほか製鉄に不可欠の資源です。

技術は飛躍的に発展しました。

日本でも、石炭の採掘と利用は江戸時代からありましたが、産業として確立したのは、明治の近代化のころです。

第二次世界大戦直前には、世界のエネルギー源の約80%を石炭が占めていました。

大戦を境に、徐々に主要エネルギーは石油に代わることになり、日本では、大戦後しばらくは石炭が主要エネルギーとして、戦後の復興を支えました。しかし、高度成長期と呼ばれる1960年代に入ると、日本の主要エネルギーも石油にとって代われ、石炭産業は衰退しました。同時に、石炭によって発展した日本各地の町も衰退していきました。

日本有数の炭田があった唐津地方

佐賀県にも、昭和40年代まで、現在の多久市、大町町、北方町(武雄市)、唐津市に**炭鉱**※1が存在していました。特に大きな**炭田**※2があったのが唐津地方です。

※1 石炭を掘り出す鉱山のこと。
※2 石炭が豊富に埋蔵されている地域のこと。

明治初期のころは唐津地域の炭鉱の出炭量は、九州内で大規模な炭鉱があった地域として知られる筑豊地域(福岡県中部から北部)や三池地域(福岡県南部から熊本県北部)よりも多く、日本最大級だったと言われています。

炭田の町は明治から第二次世界大戦直後まで賑わいました。一帯で採掘された石炭の輸送のために1903(明治36)年、西唐津～久保田間の鉄道が、1912(明治45)年には山本～岸岳間(現在は廃線)が開通しました。その後、唐津港も整備され、石炭は地域の発展を支えました。

その中で特に大規模だったのが、**芳谷炭坑**と**相知炭鉱**です。明治のころまで、一部の炭鉱は海軍が管轄して請負人が石炭を掘るといふかたちで運営されていました。しかし、多久出身の資本家・**高取伊好**らが



(多久市郷土資料館提供)

高取 伊好

1850(嘉永3)年～1927(昭和2)年



(唐津市近代図書館提供)

相知炭鉱の風景(明治時代)

高取伊好が操業した相知炭鉱は1900(明治33)年、三菱が経営を引き継いだ。

COLUMN

せいけい
高取伊好と西溪公園

高取伊好は多久家の家臣の家に生まれ、多久の学問所・東原彦舎、慶応義塾で学んだのち工部省鉱山寮で鉱山学を学び、国営の炭鉱で技術長などを務めた人物です。彼は、炭鉱で得た財を地域の発展のために惜しみなく注ぎました。学校や公共施設建設など、高取が生涯で寄付した額は、大正時代の旧多久村の年間予算の200倍を超えています。

西溪公園は多久領家老の屋敷だった場所で、1923(大正12)年、高取が私財を投じて公園として整備し旧多久村に寄付しました。現在も残る美しい日本家屋「寒鴛亭」は村の公会堂として同じく高取が寄贈したものです。名前は、多久で学び世に出る若者たちを、飛び立つ春に備えて寒い時期に鳴く練習をする鶯に見立てて付けられました。



(佐賀市観光課提供)

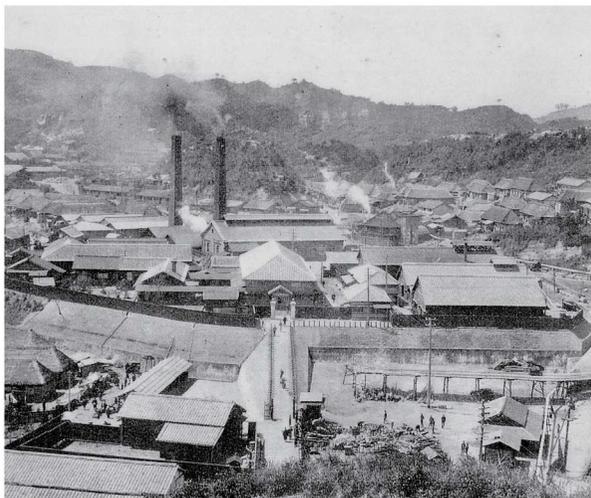
唐津のいくつかの炭鉱の採掘権を買い取り、1885(明治18)年に**芳谷鉱山会社**を設立しました。1892(明治25)年には、唐津の炭田は海軍直営から完全に民営化されました。芳谷鉱山会社は、最盛期には約2000人の従業員がいました。

相知炭鉱は、もともと地元の人によって小規模な採掘が行われていました。高取は相知にも良質の炭層があると考え、1896(明治29)年に採掘権を買い取り、鉱脈を発見しました。資金不足のため、採掘権を三菱財閥に売却してしまいましたが、その後、相知炭鉱は日本有数の炭鉱となりました。高取は、相知炭鉱の価値をいち早く見抜いていたのです。

国内外に知れ渡ったキシマコール

相知炭鉱を売却した資金を元手に、高取が開発に着手したのが、北方町(現在の武雄市)と大町町に広がる炭田です。高取は、北方町と大町町に豊富な石炭層がある手応えを得て、所有する芳谷炭坑の権利を売却

しました。その売却金をもとに、1909（明治42）年、杵島地方の約410万坪に及ぶ土地にあったいくつかの炭鉱を買収し、杵島に高取が所有する一大炭鉱群が誕生しました。



芳谷炭坑の風景
炭鉱会社の建物がひしめきあっています。
〔北波多村史〕より転載

1918（大正7）年、高取炭業株式会社を設立し、のちに会社名を**杵島炭礦会社**としました。大正時代の初め、杵島地方の炭鉱の出炭量は60万tを超え、佐賀県内の全出炭量の約3割近くを占めるほどになり、芳谷や相知からの出炭量を上回りました。従業員は5000人を超え、高取は「佐賀の炭鉱王」と呼ばれるまでになりました。

杵島地方から採掘される石炭は質の高さでも知られ、上海や東京などで「キシマコール」※3と呼ばれ、汽船用石炭として使用されました。

※3 コールは英語で石炭のこと。

石炭搬出港として高取が整備した**住ノ江港**（現在の小城市及び白石町）は、1919（大正8）年、国の特別輸出入港に指定され、佐賀の経済発展を支えました。本拠地だった大町町は石炭景気に沸き、1950（昭和25）年には人口が23000人を超えます。大町小学校は、1958（昭和33）年には、児童数4000人を超えるマンモス校となりました。しかし、このころからエネルギー政策は石炭から石油に転換され、全国の炭鉱が次々と

閉山する中、1969（昭和44）年、杵島炭鉱もその歴史に幕を降ろしました。

石炭は、近代工業の最初の発展を支えました。良質の石炭を生産していた佐賀県が、日本の近代化と経済の発展に果たした役割は大きかったと言えます。

学校の取組

【大町煉瓦館大町子どもガイド】

大町ひじり学園

大町のことを学習し修了証書をもった大町ひじり学園の小中学生が町を案内しています。



調べて書いてみよう！

石炭産業が栄えていたころの産炭地域の人口の推移と、街の様子を調べて書いてみましょう。



読んでみよう！

『さが100年の歴史－20世紀の群像』 佐賀新聞社刊
『にあんちゃん』 西川文庫刊ほか



出かけてみよう！



きたがた四季の丘資料館（武雄市北方町大字志久）

石炭産業にまつわる資料や、炭鉱で使用されていた採掘機器・写真パネルを展示しています。

TEL 0954-27-7162／休館日 月曜日／開館 8:30～17:00

（武雄市北方町まちづくり課提供）



西溪公園と寒鷲亭（多久市多久町 1975-1）

寒鷲亭は多久市公会堂として文化活動などに広く利用されています。

TEL 0952-74-3591（指定管理者：西九州建設株）

（多久市郷土資料館提供）

検索してみよう！

東原厩舎

唐津石炭産業史

石炭産業の歴史





「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」
として世界遺産に登録されている三重津海軍所跡。発掘
された遺構は現在埋め戻されていますが、ここを訪れる
と幕末佐賀藩の先進的な歩みをたどることができます。



三重津海軍所跡 早江津川沿いの約600mにわたってつくられ、幕末期にはオランダ
ことのできるドックもありました。

10代藩主・鍋島直正の先見性が佐賀藩を雄藩に

2010(平成22)年、筑後川の支流・草津江川の河口
付近に位置する佐賀市諸富町・川副町の**三重津海軍
所跡**※1から、洋式船の修理用としては日本最古の
ドライドックの遺構が発見されました。三重津海軍
所がどのような役割を果たしたのか、その謎を解く

※1 「三重津海軍所」という呼び名はのちの呼び方で、幕末期には、「海軍取調方出

調べてみよう？
当時の日本を取り巻く
世界の様子は
どんなだったのだろう？



(佐賀市教育委員会提供)
から購入した長さ約45mの「電流丸」を引き入れる

COLUMN

近代化の先駆者 鍋島 茂義

鍋島茂義は直正の義兄で武雄の領主
でした。武雄も長崎警備の一翼を担っ
ており、茂義は西洋砲術をはじめ積極
的に蘭学を導入しました。蘭書、天球
儀・地球儀、天体望遠鏡など、茂義が集
めたもののうち2224点の資料が「武雄
鍋島家洋学関係資料」として国の重要
文化財に指定されています。

鍵は、幕末期に佐賀藩が次々に行
った先進的な取り組みにありまし
た。

幕末から明治時代のはじめ、
強い政治・経済・軍事の力で幕府
や新政府に影響を与えた藩は、
「雄藩」と呼ばれます。特に影響力
があったのが、「薩長土肥」と言わ
れる薩摩(鹿児島)藩、長州(山口)

藩、土佐(高知)藩、そして肥前(佐賀)藩です。

佐賀藩が雄藩と呼ばれる理由は、他藩に先駆けて推し進めた近代化
事業にあります。その中心人物が、10代藩主**鍋島直正**です。直正の先見
性が磨かれた要因としては、鎖国時代西洋に門戸を開いていた長崎を
警備する大役を佐賀藩が果たしてきたことが挙げられます。1830(文
政13)年、藩主となって初めて佐賀に入った直正は、長崎警備を視察し、
張所「御船手稽古所」などと呼ばれていました。

オランダ船を見学しました。そのとき直正は、西洋の優れた技術の習得が必要だと痛感したと思われま

失敗の連続を乗り越えて、ついに大砲製造に成功

1840(天保11)年、直正は、岩田台場(神崎市)で武雄領主鍋島茂義なべしましげよしが取り組んできた西洋式砲術の演習を見て、佐賀藩に西洋式砲術の本格的導入を開始しました。また、幕府に対して、長崎警備強化のための「鉄製西洋式大砲製造」と「大砲を設置する砲台の建造」を願い出ました。しかし、この願いは聞き入れられませんでした。直正は、これらのことを佐賀藩だけの力でやろうと決意し、幕府にできなかった科学技術導入と軍備強化を推し進めていきました。

鎖国時代に日本で初めて西洋の科学技術を学ぶ方法は、西洋の書物に頼るしかありませんでした。佐賀藩は、オランダ陸軍少将ヒューゲニンが記した『ロイク王立鉄製大砲製造所ちゅうぞうじょにおける製造法』というオランダ語の書物を独自に翻訳することから始めました。大砲製造のためには、鉄を大量に溶解するための**反射炉**はんしやろが必要でした。

そこで1850(嘉永3)年、佐賀藩士や城下いものしらいもじの鑄物師、刀鍛冶などからなる大銃製造方というプロジェクトチームを発足させ、佐賀



築地反射炉記念碑と復元されたカノン砲
佐賀市長瀬町にある市立日新小学校の敷地内にあります。

城下の北西にあたる**築地**ついで(現在の日新小学校の一部)に日本初の反射炉を築造しました。しかし、大砲の製造は失敗の連続で、大銃製造方のメンバーは、一時、製造を不可能と思い責任をとろうとして切腹しようとした、という話も残っています。

直正の説得により、大銃製造方は努力を続け、ついに1852(嘉永5)年、鉄製大砲の製造に成功しました。完成した鉄製大砲は、長崎湾外の台場たいばに備え付けられました。

1853(嘉永6)年、ペリーが浦賀に来航すると、幕府は江戸を守るために佐賀藩に鉄製大砲を注文し、50門鑄造して納めることになりました。当時、鉄製大砲を鑄造することができたのは佐賀藩しかなかったのです。

幕末に築造された反射炉としては、鹿児島県鹿児島市や静岡県伊豆の国市のくにのものが知られていますが、日本で初めて反射炉築造と鉄製大砲鑄造に成功したのは佐賀藩だったのです。

三重津海軍所の始まりは「御船手稽古所」

ペリー来航によって危機感を抱いた幕府は、1855(安政2)年、西洋式の造船技術、航海術、砲術、測量技術、天文、地理などを学び訓練する長崎海軍伝習所でんしゅうじょを開設します。伝習生は幕府直属の家臣や諸藩の藩士で、佐賀藩は伝習所参加にどの藩よりも意欲的で、全伝習生の3分の1以上を佐賀藩が占めたとされます。1858(安政5)年、長崎海軍伝習所で学んだことを藩内でも生かすため、**三重津**みえつ(現在の佐賀市諸富町・川副町)に「御船手稽古所」おふなて けいこじょが設置されました。これが三重津海軍所の始まりです。

COLUMN

同じ人間なのだから、できるはず

直正は大砲鑄造法の訳書を薩摩藩主島津齊彬しまづなりのあきらに贈りました。薩摩藩はこれをもとに、失敗を繰り返した末、反射炉を完成させたのです。齊彬は苦勞を重ねる薩摩藩士たちを「西洋人も人なり、佐賀人も人なり、薩摩人も同じく人なり、退屈せず(くじけず)ますます研究すべし」と激励しました。



「凌風丸」を描いた絵図 凌風丸は1865(慶応元)年に三重津で完成しました。(佐賀神社提供)

1859(安政6)年、長崎海軍伝習所が閉鎖されました。佐賀藩は、造船や船の修理や整備を行うドライドック、航海術や造船術・砲術などの実地訓練場など、三重津海軍所をさらに充実させていきます。

三重津海軍所で生まれた、日本初の実用蒸気船「凌風丸」

1855(安政2)年、西洋の最先端の科学を研究・実験する「**精煉方**」のメンバーが、日本で初めて蒸気機関車と蒸気船のひな型作りにも成功しました。小さいながら自走できる非常に精巧なものでした。それから10年後の1865(慶応元)年、この三重津海軍所で、日本で初めての実用蒸気船「**凌風丸**」が完成したのです。

2015(平成27)年、ユネスコ世界

COLUMN

東京のお台場には佐賀の大砲があった！

東京都品川区のお台場は、ペリー再来航に備え幕府が大砲を設置する台場として整備した場所です。佐賀藩で造られた大砲が据えられていました。



文化遺産に登録された三重津海軍所跡は、激動の幕末期、未来を見据えて最先端の科学技術を追い求めた佐賀藩の姿を今に伝えるものです。

学校の取組

【三重津ガイドボランティア】

■佐賀市立中川副小学校

中川副小学校の6年生が、三重津海軍所について説明を行っています。



発掘調査時の木製ドライドック

確認されたものとしては国内最古の木製ドライドック。石やレンガを使う西洋式と異なり、木や土を用いた日本の伝統技術でつくられています。

調べて書いてみよう！

凌風丸以外で、佐賀藩はどんな蒸気船を持っていたでしょう。調べて書いてみましょう。



出かけてみよう！



佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館(佐賀市川副町早津津 446-1)
佐野常民の偉業や仲愛の精神を学ぶ拠点施設として、佐野常民に関する資料や遺品、三重津海軍所の資料などが展示されています。
TEL 0952-34-9455 / 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始 / 開館 9:00~17:00
(佐賀市提供)



検索してみよう！

鉄製大砲

黒鉄の志士たち



第2章

No.04

やきものの王国佐賀県

やきものの代名詞 唐津焼、磁器の発祥 有田焼



佐賀県は日本有数のやきものの産地です。現在も県内各地に窯元がありますが、佐賀県と長崎県を合わせた肥前の国は、古くからやきものが盛んな地域だったのです。



灰釉茶碗 銘「瑞雲」【奥高麗】
(1590-1610年代)
竹田磁器夫氏寄贈
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

鉄絵萩文壺【繪唐津】
(1590-1610年代)
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

霰灰釉壺【唐津焼】
(1580～1590年代)
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

佐賀県の様々なやきもの 佐賀県は古くからやきものが盛んで、唐津焼、有田焼

やきものの代名詞となった唐津焼

やきものには、土器、陶器、磁器などの種類があります。

日本を代表する陶器の一つが唐津焼です。その起源ははっきりと分かっていませんが、朝鮮半島の技術を導入して安土桃山時代に焼かれるようになったと言われます。やがて、唐津焼は全国に広がり、主



色絵花鳥文六角壺
【有田焼(伊万里焼)】
(佐賀県重要文化財)
(1670～1690年代)
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

色絵桜樹文皿【鶴島焼】
(1700～1720年代)
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

(伊万里焼)など様々な陶磁器の産地として有名です。

に東日本を含む日本海側では、やきもののことを「からつもの」と呼ぶほどになりました。

豊臣秀吉の命令によって行われた朝鮮出兵(文禄の役・慶長の役)をきっかけに、やきものの先進地であった朝鮮から技術の導入が進められます。これにより、唐津焼の生産量や種類がさらに増大していきます。

唐津焼は、茶道で使う茶碗の名品としても知られます。茶道をたしな

陶器と磁器の違いって何?

陶器	磁器
叩いたとき、柔らかく低い音がする。	叩いたとき、硬く高い音がする。
原料は陶土(有色粘土)が主である。	原料は陶石を粉碎した石粉が主である。
1250～1300℃で焼き上げる。	1280～1350℃で焼き上げる。
素地が粗く吸水性がある。釉薬により吸水を防ぐ。	吸水性がない。(釉薬は使用)

焼き物にかける釉薬とは

焼き上げた時に器の表面をガラス状にしてつやを出すために掛けるものが釉薬で、代表的原料は木灰・わら灰を混合して水溶液にしたものです。その配合により色が変わります。

む人たちに人気のやきものであり、江戸時代は唐津藩の保護を受け、藩から徳川将軍家に茶碗が献上されていました。唐津焼は、明治時代以降、一度衰退しながらも、人間国宝・12代中里太郎右衛門の登場により勢いを取り戻します。現在では約70もの窯元が、伝統を受け継ぎながら独自の作品を作り続けています。

佐賀藩の経済を支えた磁器生産

一方、磁器は江戸時代から生産が開始されました。1616(元和2)年有田に入った朝鮮出身の陶工・**金ヶ江三兵衛**(李参平)により、有田焼(伊万里焼)の原料となる陶石の採掘場「**泉山磁石場**」が発見されたことで、本格的に磁器生産が開始されたと言われます。日本の磁器は有田から始まったのです。有田での磁器生産は、周辺の波佐見(大村藩)、三川内(平戸藩)などにも広がります。それらの産地で作られた磁器の多くは、**伊万里港**から積み出され、江戸や大坂(現在の大阪)、遠くは長崎の出島を通じて海外へも送られました。そのため、江戸時代、有田を中心とする地域で作られた磁器が、総称して**伊万里焼**と呼ばれました。

有田での磁器生産が本格化すると、燃料用に周囲の山々の樹木が次々と伐採され、山が荒れてしまいました。そのため、佐賀藩では「**窯焼名代札**」を発行して、許可された窯場(生産地)だけに磁器生産を許可します。さらに、有田には「**皿山代官所**」を置き、磁器生産を藩で管理しました。有田の磁器は、佐賀藩の大きな財源の一つとなりました。

1897(明治30)年に、有田まで鉄道が開通し、それまで伊万里港から積み出していた磁器が、鉄道によって出荷されるようになります。有田から直接出荷されることで、「有田焼」の名称が定着したと言われています。

技術向上と変遷する様式

有田焼(伊万里焼)の歴史は、技術向上の歴史でもあります。江戸時代

初期、1610年代から1650年代ごろまでに焼かれた磁器は、のちの様式に比べて厚みがある素朴なもので「**初期伊万里様式**」と呼ばれています。それが、1640年代から1660年代ごろになると「**初期色絵様式**」と呼ばれる色絵製品が登場し、赤・黒・緑・黄・青・紫などの色彩が使われるようになりました。その後、1670年代から1690年代ごろにかけては、濁手と呼ばれる乳白色の素地に余白を強調した左右非対称の構図が特徴の「**柿右衛門様式**」が流行します。さらに、1690年代から1720年代ごろには、濃い赤や金を多く使い、全体をさまざまな文様で埋めた豪華な「**古伊万里金襴手様式**」が登場します。

佐賀藩では、献上・贈答用の高級な磁器が藩の窯で焼かれました。その気品ある形態や作風を「**鍋島様式**」と呼びます。1660年代から廃藩置県まで大川内山(伊万里市)の藩窯で、佐賀藩の厳重な管理のもと、技術の粋を集めて作られました。

初期伊万里様式



染付吹墨山羊文皿
1610~1630年代
鼎山夫妻コレクション
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

初期色絵様式



色絵樹木花鳥文大皿
1640~1650年代
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

柿右衛門様式



色絵梅鶉文輪花小皿
1670~1690年代
柴田夫妻コレクション
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

古伊万里金襴手様式



色絵雲草花四方襴文鉢
1690~1710年代
柴田夫妻コレクション
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)

鍋島様式



染付銀杏文大皿
1700~1730年代
(佐賀県立九州陶磁文化館所蔵)
※年代は各作品の作成年

COLUMN

多彩な佐賀県のやきもの

唐津焼・有田焼(伊万里焼)以外にも佐賀県ではさまざまな陶磁器が焼かれてきました。代表的なものが、嬉野市の肥前吉田焼、武雄市の武雄焼などです。



ヨーロッパに渡った佐賀の有田焼(伊万里焼)

時代ともに行われた生産技術の革新の背景には、有田焼(伊万里焼)が国内だけでなく、海外に向けて生産されたことがあります。

17世紀中期、磁器を世界各国へ輸出していた中国が、内乱により輸出を中止したことで、有田焼(伊万里焼)が注目されることとなったのです。有田焼(伊万里焼)は、長崎の出島で貿易を行っていた**オランダ東インド会社**の注文に応じて、17世紀中期からヨーロッパの王侯貴族向けの磁器として輸出され、珍重されました。しかし、情勢が安定した中国が輸出を再開すると、有田焼(伊万里焼)の海外向け生産は途絶え、国内

向けに日本人好みの形やデザインを追求したことで、江戸時代中期には一部の裕福な人たちに愛されるようになります。さらに、文様の簡略化などによって、江戸時代後期には広く庶民にも買いやすい価格での生産を可能としました。

2016(平成28)年、有田焼(伊万里焼)と日本の磁器の歴史は400年を迎えました。現在、日本で活躍しているやきもの分野の重要無形文化財保持者(人間国宝)の十四代今泉今右衛門氏が佐賀県在住です。佐賀県のやきものは、現代においても日本のやきもの界の草分けであると言えます。

学校の取組

【陶芸交流授業】

佐賀県立有田工業高等学校
セラミック科
セラミック科3年生が地元小学校へ出向き、焼き物制作の指導補助を行うものです。



調べて書いてみよう!

明治時代になると、有田焼がどのように発展したか調べて書いてみましょう。

出かけてみよう!



佐賀県立九州陶磁文化館(西松浦郡有田町戸杓乙3100-1)
肥前陶磁器をはじめ、九州各地の多彩な陶磁器文化を知ることができます。
TEL 0955-43-3681 / 休館日 月曜日(祝日の場合、開館)・年末(12月29日~31日) / 開館 9:00~17:00(入館は16:30まで)



検索してみよう!

トンバイ塀	陶磁器 歴史
唐津焼 波多氏	佐賀県 人間国宝



『葉隠』〜大慈悲の心で

今も読み継がれ、人としてのあり方を教えてくれる



今から300年ほど前にまとめられた『葉隠』は、武士道の書として知られています。しかし、現代の私たちの心にも響く生活哲学が書かれています。



『葉隠』写本 佐賀藩で読み継がれていた『葉隠』の写本です。

『葉隠』と佐賀藩

『葉隠』は、江戸時代中期に書かれた書物です。佐賀藩士山本常朝が武士としての心得を口述し、それを田代陣基が筆録したものです。全11巻で、『葉隠聞書』とも言われています。『葉隠』では、佐賀藩士としてあるべき心・姿を示し、「大慈悲の心」を重んじて

調べてみよう?

なぜ人々は『葉隠』に心動かされたのだろうか？



COLUMN

『葉隠』の名前の由来

書名の由来には、諸説あります。例えば第11巻の「すべての人の為になるは我が仕事と知られざる様に、主君へは陰の奉公が真なり(中路)陰徳を心がけ陽報を存ずまじきなり」(陰の奉公や徳を重んじ、自分の功績を現すことを競うようなことがあってはならない)からきている説。常朝の庵のある地域に「葉がくし」という柿が多くある説。平安時代末期の歌人西行の和歌によるという説。広く世の中の人々に読ませる書ではなかったので『葉隠』と言ったという説などがあります。

います。その思想は多くの人に影響を与え、今も読み継がれています。

『葉隠』の誕生

佐賀藩2代藩主鍋島光茂が没してから10年後の1710年、金立山(現在の佐賀市金立町)の麓にある一人の佐賀藩士

が訪ねてきました。庵の主は、山本常朝です。長年、光茂の側近として仕えてきたため光茂が没した時に殉死を願ったものの、殉死禁止令によって断念し出家した身でした。

金立山を訪れたのは3代藩主綱茂と4代藩主吉茂に仕えてきた田代陣基でした。

田代陣基が山本常朝の元を訪れて以後、山本常朝が庵を大小隈(現在

の佐賀市大和町)に移した後も合わせて、およそ7年間にわたって常朝の言葉を聞き取り、11巻にわたる『葉隠』をまとめることになります。

常朝の思想に大きな影響を与えたと言われているのが、鍋島家の菩提寺である高伝寺(現在の佐賀市本庄町)第11世住職の**湛然和尚**と、長年神道・儒学・仏教を学んできた佐賀藩士**石田一鼎**だとされています。

当時は江戸幕府が開かれて100年ほど経ち、戦乱の記憶も遠ざかった平和な時代でした。藩祖鍋島直茂の時代からみると武士



(佐賀市教育委員会提供)

常朝先生垂訓碑
現在の佐賀市金立町にあります。「葉隠発祥の地」と呼ばれています。

『葉隠』四誓願

- 一、**武士道に於ておくれ取り申すまじき事**
(武士の道においておくれを取らないようにすること)
- 一、**主君の御用に立つべき事**
(主君のお役に立つこと)
- 一、**親に孝行仕るべき事**
(親孝行をつくすこと)
- 一、**大慈悲を起し人の為になるべき事**
(大きな慈悲の心で人のためになるようにすること)

COLUMN

門外不出の秘本!?

『葉隠』の前半には、佐賀藩の伝統的精神に基づく教訓や藩祖直茂、初代勝茂、勝茂の子忠直、2代光茂、3代綱茂らの言行が述べられています。後半には、佐賀藩士たちの逸話や史跡・伝説などを集めて述べられています。個人の実名などが挙げられ、差し障りもあったことから常朝は陣墓にこれを焼き捨てるようにと命じていましたが、佐賀藩士たちの間では、写されて読み継がれていました。

の思想・生活は大きく変化し、武士の生き方にも戦国時代の武勇・剛健の気風が徐々に薄れつつありました。

そんな時代、常朝は『葉隠』によって、佐賀藩の武士はどうあるべきか、「常に己の生死にかかわらず、正しい判断をせよ」と説いています。

『葉隠』には、冒頭に「佐賀藩の家臣たるものは、藩の歴史・伝統

を知ることが肝要」とあって、常朝の思想や藩主・藩士などの言行・逸話が書かれています。

現代に生きる大慈悲の心

葉隠の四哲



(通天寺提供)

山本 常朝

1659(万治2)年~1719(享保4)年



(通天寺提供)

湛然和尚

不詳~1680(延宝8)年



(通天寺提供)

石田 一鼎

1629(寛永6)年~1693(元禄6)年



(通天寺提供)

田代 陣墓

1678(延宝6)年~1748(寛延元年)

湛然和尚、石田一鼎、山本常朝、田代陣墓の4人は「葉隠の四哲」と呼ばれています。湛然和尚は鍋島家の菩提寺・高伝寺、第11世の住職であり、石田一鼎は佐賀藩武士道の開祖ともいうべき人で、佐賀藩第一の学者と言われた人物です。常朝はこの二人の教えを受けました。「四誓願」は、石田一鼎の「三誓願」に影響を受け、これに湛然和尚の慈悲の心を加えたものだと考えられています。

葉隠に記載されていること(一部抜粋)

(出典 東照流郎著『校註 葉隠』)

大難大変に逢うても動転せぬといふは、まだしきなり。
大変に逢うては歡喜踊躍して勇み進むべきなり

(圖書1-116)

何事も成らぬといふ事なし。一念起ると、天地をも思ひほがすものなり。成らぬといふ事なし。人がかひなき故、思ひ立ち得ぬなり。
力をも入れずして、天地を動かすといふも、只一心の事なり。

(圖書1-144)

恋の至極は忍恋と見立て候。逢うてからは恋のたけが低し。

(圖書2-205)

端的只今の一念より外はこれなく候。
一念々と重ねて一生なり。

(圖書2-220)

成富兵庫申され候は、「勝ちといふは、味方に勝つ事なり。味方に勝つといふは、我に勝つ事なり。
我に勝つといふは、氣を以て體に勝つ事なり。」

(圖書7-931)

『葉隠』の思想内容をよく表しているのが「**四誓願**」だとされています。

武士道では、人に負けない心を持つこと、主君の役に立つこと、親に孝行をすることに加え、あらゆる人を隔てなく大切に思う「慈悲」の心が大事であり、人のために尽くすようにと説いています。人として生まれたからには、人や世の中の役に立つことは、時代が変わっても求められる人としてのあり方といえます。

『葉隠』では、「武士道と云うは、死ぬ事と見付けたり」という一節が非常によく知られています。この言葉の真意は「私心を捨てて覚悟をもって

公務に尽くすこと」「私利私欲を捨てること」と解釈され、決していたづらに死を求めものではないとされます。むしろ、立派に自分の仕事を成し遂げるための心得を述べたものと考えられます。

学校の取組
【金立かるた】

佐賀市立金立小学校
金立小学校では郷土を題材にした金立かるたで、地区の方との交流を深めています。



『葉隠』には「勝つことは、自分に勝つこと」「願えばかなう」など、現代にも通じる考え方が示されています。およそ310年前の山本常朝の言葉は、現代の人にも影響を与え続けています。

調べて書いてみよう!

『葉隠』の内容を調べて、気に入った文章を書いてみましょう。



読んでみよう!

『葉隠』
岩波文庫など

『校註 葉隠』
新潮社刊



出かけてみよう!



通天寺 (佐賀市大和町大字松瀬2142)
温然和尚の彩色座像や山本常朝などの肖像画が飾られています。
TEL 0952-63-0029
(通天寺提供)



龍雲寺 (佐賀市八戸1丁目6)
墓地には「旭山常朝菴主」と刻まれた墓があります。「旭山常朝」とは、常朝の法名です。
TEL 0952-24-1712
(佐賀市教育委員会提供)



検索してみよう!

龍造寺

佐賀城



17世紀の防災と治水

成富兵庫茂安と寺沢広高の防災・治水事業



人間の力は自然の力に及びませんが、少しでも災害を減らし、人々の暮らしが安定するように、知恵をしぼって取り組んだ先人たちがいました。



千葉土居公園 千葉土居を後世に伝えるため、現在は本来の姿を200mほど残して公園

佐賀平野の基礎を築いた「治水・利水の神様」

江戸時代初期に佐賀藩で治水事業を手がけた人物に成富兵庫茂安がいます。茂安は、佐賀藩初代藩主鍋島勝茂の重臣として、水害の防止、新田開発、堤防工事、灌漑工事、上水道建設などによる藩内の開発にあたることとなります。関ヶ原の戦いの後、徳

調べてみよう? 成富と寺沢の治水事業はのちの世にどのような影響を与えたんだろう?



として整備されています。



成富君水功之碑 (さが水ものがたり提供) 石井樋公園内にあります。題字は、佐賀県出身の副島種臣が書いたものです。

川幕府成立によって戦乱の世が終わると、全国各地の大名たちは領地が確定保証されたことで、領内の開発に力を注ぐようになりました。

鍋島勝茂が藩主となった当時の佐賀平野は、アシの生い茂る原野も多くありました。河川は大雨が降ると氾濫し、短時間で流れが変わるような状態でした。とくに、「筑紫次郎」の異名をもつ筑後川は、たびたび洪水を起こし、領民に大きな被害を及ぼしていました。そこで、まず茂

安は、12年の歳月をかけて筑後川の堤防を高くし、氾濫したときには洪水の激流を和らげるために竹や杉を植林する治水事業を手がけます。これは「**千栗土居**」と呼ばれる堤防で、現在のみやき町千栗地区から坂口地区にかけて、およそ12kmにわたって築かれました。

また、佐賀藩を豊かにするために原野を水田に変えることも大きな課題でした。そこで、脊振山地の蛤岳中腹に水路「**蛤水道**」を築き、平野に多くの水が流れる利水事業を行いました。

嘉瀬川に「**石井樋**」と呼ばれる堰を築き、嘉瀬川の水を多布施川を通じて佐賀城下へ送ることができるようにしました。「石井樋」には、川水



石井樋公園 園内には、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻などがあり、石積みも数多く残っています。左手の川は嘉瀬川本流です。

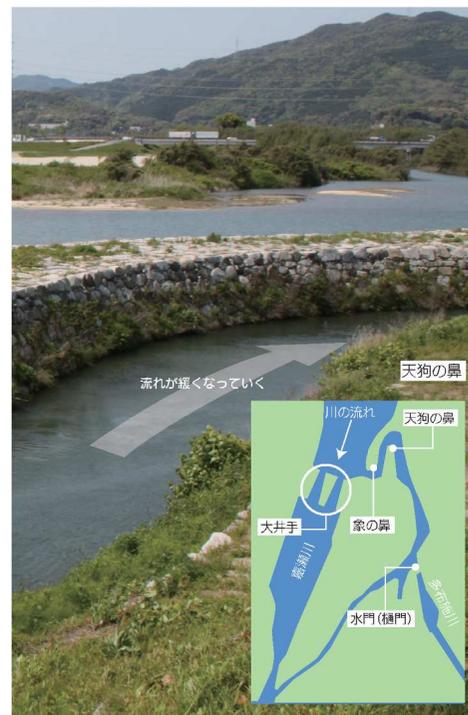
の土砂を「象の鼻」、「天狗の鼻」などと呼ばれる石造りの施設で沈殿させて、きれいな水を下流に送る工夫がされています。

さらに、石井樋より上流の水を市の江川を経由して巨勢川に導き、新田の開発を進めました。現在も巨勢川流域に「兵庫町」という地名が残っていることから、成富の功績をうかがうことができます。

このように、現在の佐賀平野の穀倉地帯の基礎を築いたほか、馬頭(伊万里市)や羽佐間水道(多久市)なども茂安が携わった事業として伝えられ、「治水の神様」「利水の神様」と呼ばれています。

松浦川大工事と新田開発を実現した唐津藩

唐津藩の初代藩主寺沢広高は、尾張(現在の愛知県)の生まれで、豊臣秀吉に仕え、唐津領主となりました。関ヶ原の戦いでは東軍に参加しました。



(佐賀市観光協会提供)

COLUMN

加藤清正と成富兵庫茂安

1600(慶長5)年、肥後一国の領主となった加藤清正は、治水・水利事業に手腕を発揮する成富兵庫茂安を1万石で召し抱えようとした。しかし、茂安は鍋島勝茂への忠義を貫き「たとえ肥後一國を賜るとも応じがたく候」と断ったという逸話が残されています。



(株式会社観音堂提供)
加藤清正像

COLUMN

倅約家だった寺沢広高

丘陵地の多い唐津藩では水田が少なく、畑地に適した麦がよく収穫できたことから、寺沢は田植え前の5月と6月は藩士たちとともに麦飯を食べていたと伝えられています。また、夫人とともに木綿の衣服を着て、塩魚や干物などの質素な食事を好んだと言われています。



(佐賀県教育委員会提供) 寺沢広高の墓 (唐津市鏡神社の一角)

COLUMN

虹の松原にまつわる
言い伝え

海岸近くなのに塩分を含まない真水が出る井戸があるといわれます



虹の松原・クロマツの林

(佐賀県観光連盟提供)



1602(慶長7)年、唐津城築城にあたり、寺沢は、満島と陸続きであった部分を開削によって切り離し、**松浦川**の河口を現在のように東側に移動させる大工事を行います。それによって唐津城の防備力を高め、舟運が便利になり、城下町の基礎を築きました。

松浦川の整備とならんで、寺沢が力を入れたのが、新田の開発でした。松浦川に堤防を築き鬼塚新田や鏡大渡新田を造成したり有浦新田(現在の玄海町)などを開発したりしました。

さらに、新田開発の一環として、防風・防砂とともに塩害を防ぐために、海岸線にクロマツを植林し、玉島川河口から松浦川河口

に広がる「**虹の松原**」をつくりました。「虹の松原」は唐津藩の保護のもと、燃料としてのマツ葉の採取を厳しく制限するのはもちろんのこと、伐採は死罪とする「禁伐の掟」が定められていました。その後も「虹の松原」は、唐津藩の藩主が代わっても手厚く管理され、近年になっても玄海国定公園の一部として、幅約500m、長さ約4.5kmにわたって約100万本のクロマツ林が続き、美しい景観が保たれています。

学校の取組

【松露プロジェクト】

■佐賀県立唐津南高等学校

虹の松原の「白砂青松」と「松露」を復活させようと考え、保全活動を行っています。



調べて書いてみよう!

石井樋の仕組みについて調べて書いてみましょう。



読んでみよう!

『成富兵庫茂安 佐賀藩の初期を支えた男 戦場に、外交に、そして治水』
佐賀新聞社刊



出かけてみよう!



さが水ものがたり館 (佐賀市大和町大字尼寺 3247)

成富兵庫茂安の業績を知ることができます。施設内にある石井樋公園では、象の鼻や天狗の鼻を見ることができます。

TEL 0952-62-1277 / 休館 日曜日、年末年始 / 開館 9:30~17:00

(佐賀市観光協会提供)



検索してみよう!

佐賀 治水

唐津藩 新田開発





東松浦半島のほぼ先端に位置する肥前名護屋。
かつてそこには、日本史上例を見ない20万人規模の巨大な城下町がありました。

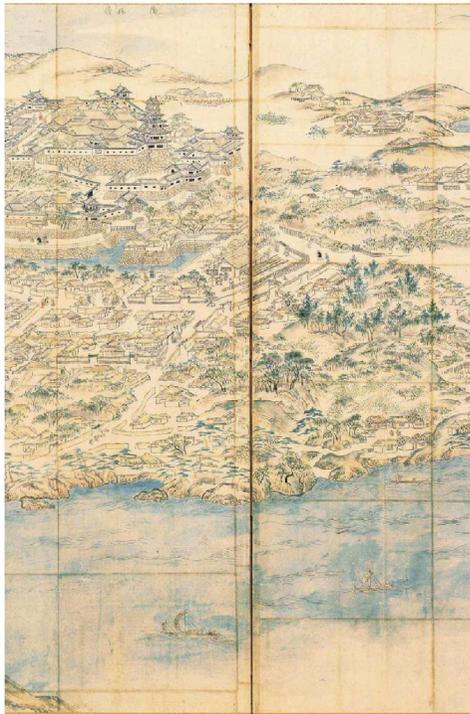


肥前名護屋城図屏風 (佐賀県重要文化財) 狩野派の絵師狩野光信の作。

肥前名護屋に忽然と現れた20万人の軍事都市

天下統一を成し遂げた豊臣秀吉は、明へ侵攻の野望を抱きました。その足掛かりとして、二度の朝鮮出兵を行いました。その際、拠点として選んだのが、肥前名護屋でした。肥前名護屋城は、秀吉の命により黒田孝高(如水)の設計で、加藤清正、小西行長らをは

調べてみよう? どうしてこの場所に城を築いたのだろう?



(佐賀県立名護屋城博物館提供)



豊臣秀吉画像 (桃山～江戸時代初期) 晩年の肖像画です。(佐賀県立名護屋城博物館提供)

COLUMN

こんなところに豊臣秀吉伝説 1

名護屋橋

佐賀市嘉瀬川の名護屋橋はかつて豊臣秀吉が通過したと言われています。朝鮮出兵のため軍を率いた秀吉がこの地に来てきたところ、川が氾濫しており通過が困難でした。その際、鍋島直茂は急いで船で浮橋を作って秀吉軍を渡河させました。その後、何度も作りなおされましたが、この橋は今でも名護屋橋の名で呼ばれています。

じめとする九州の大名たちが分担して工事をを行い、それまでの日本史上例を見ない、わずか5か月という短い期間で完成したと言われています。完成と同時に、全国から約160の諸大名が集められ、当時の大坂城に次ぐ広大な規模の城郭が築られました。

わずか7年で消えた天下人の城下町

城下町には、商人が次々に生活物資をもたらし、肥前名護屋には全国

から20万人が集ったとされています。当時の様子を表したのが「肥前名護屋城図屏風」です。加部島から名護屋城方面を望んだもので、名護屋城や陣屋の様子をはじめ、名護屋城下の暮らしぶりも細かに描かれています。しかし、1598(慶長3)年、秀吉の死後、城としての機能はなくなり、江戸初期には一揆に使われないよう城自体が破却され、城下町はもとの静かな漁村へと戻りました。



名護屋帯(復元) (佐賀県立名護屋城博物館寄託)
名護屋城下で売られた紐帯。名護屋土産として、全国的に人気が広がりました。

陣屋の位置と大きさから見える?! 大名の力関係

名護屋城を中心に、半径約3kmの範囲に諸大名が次々に陣屋を築きます。その数は約130にも及びます。**黒田長政**、**加藤清正**をはじめ、**徳川家康**、**石田三成**、**伊達政宗**、**真田昌幸**など、全国の大名が名護屋に集結しました。陣屋の配置や大きさから、それぞれの大名が持つ力や秀吉との関係をうかがい知ることができます。

COLUMN

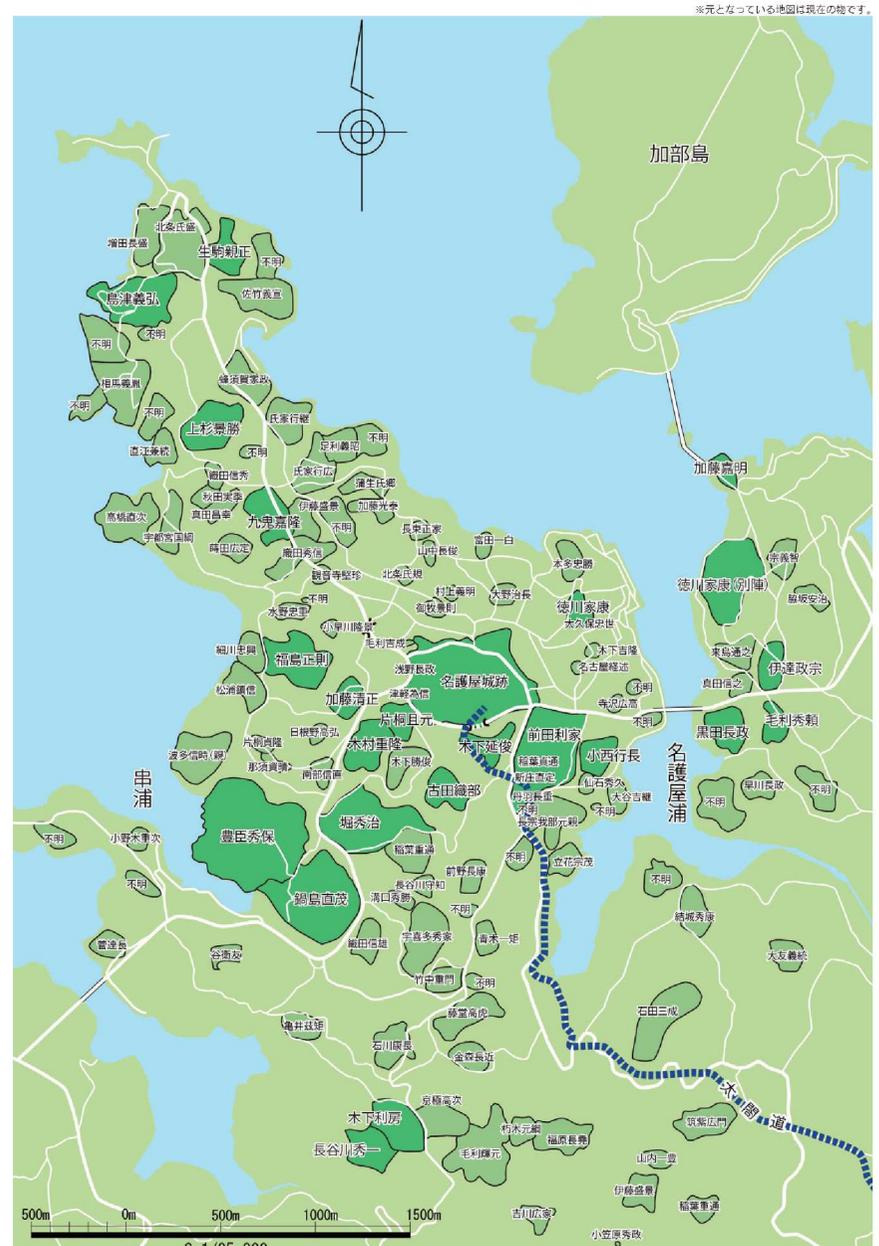
こんなところに豊臣秀吉伝説 2

広沢寺のソテツ

名護屋城の一角にある広沢寺に、加藤清正が朝鮮から持ち帰り、秀吉が手植えしたと伝えられるソテツがあります。国の天然記念物に指定されています。



(唐津市教育委員会提供)



名護屋城跡・陣跡配置図 半径3kmに約130の陣跡が点在しています。

(佐賀県立名護屋城博物館提供)



天守台
かつて、この場所に5層7階の20mを超える天守閣が建っていました。
(佐賀県立名護屋城博物館提供)

COLUMN

こんなところに豊臣秀吉伝説 **3**

呼子の綱引き

秀吉が兵を鼓舞するため、加藤清正と福島正則の陣営を東西に分け、軍船の綱を引かせたことから始まったと伝える伝統の祭りです。



(唐津市呼子センター産業課提供)



(佐賀県立名護屋城博物館提供)
能装束 (現代のもの)
能に興味があった秀吉は、有名な能役者を名護屋まで呼び寄せました。



黄金の茶室 (再現CG)
至る所に黄金が使われた茶室です。組み立て式で、運搬が可能でした。
(佐賀県立名護屋城博物館提供)



豊臣秀吉自筆書状 (1593(文禄2)年/佐賀県重要文化財)
北政所宛に書いた手紙。能の稽古をしていることなども記されています。
(佐賀県立名護屋城博物館提供)

陣跡から、建築様式や当時の暮らしぶりを知る

諸大名の陣跡からは、能舞台や茶室、庭園の跡が発見されました。それぞれの陣屋で趣向を凝らした様子が見え、井戸跡や厠(トイレ)の跡もあり、当時の暮らしぶりがわかる貴重な資料となっています。建物跡など、遺構が良好な状態で残っているものが多く、1955(昭和30)年「名

護屋城跡並びに陣跡」は国の特別史跡に指定されました。

肥前名護屋に花開いた桃山文化

秀吉は、名護屋城に入城する際に、黄金の茶室や多くの茶道具を運ばせ、城内や大名の陣屋で連日茶会を開きました。能舞台や茶室の跡があったことから、能や連歌など、華やかな文化も盛んであったことが見てとれます。

学校の取組

【日韓交流史】

佐賀県立唐津青翔高等学校

人文・芸術系列

名護屋城の城下探索、発掘体験などの体験型授業をして名護屋城について学んでいます。



調べて書いてみよう!

あなたが知っている武将は誰ですか。調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



(設計・監修:西和夫・アルセッド建築研究所)

佐賀県立名護屋城博物館

文禄・慶長の役の不幸な歴史を踏まえ、「日本列島と朝鮮半島との交流史」を主題にした博物館。特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」を中心に、「肥前名護屋城図屏風」や「城と城下町模型」などの資料を常設展示しています。

TEL 0955-82-4905 / 休館日 月曜日 / 開館 9:00~17:00

(佐賀県観光連盟提供)

バーチャル名護屋城

専用アプリをスマートフォンやタブレットにダウンロードすることで、当時の名護屋城をリアルタイムで体験できます。ゲーム感覚で歴史が学べるクイズや名護屋城を描いた屏風絵の中にGPSで現在地が表示されるなど、機能が充実しています。地元ガイドと一緒に城跡を巡る「バーチャル名護屋城ガイドツアー」もあります。

※名護屋城博物館でスマートデバイス(iPad mini)の貸し出し(無料)も行っているので、借りてみましょう!



検索してみよう!

文禄・慶長の役

秀吉 名護屋城





古代山城「基肄城」は、現在の基山町にある基山を中心とした地域に、大宰府という重要な施設の南側の守りとして7世紀に築られました。



「城」と言ったとき、多くの人は天守閣のようなものを想像するのではないのでしょうか？
古代山城に、天守閣はありません。
山そのものの頂上や尾根筋などに土塁等を築き、敵が攻めてきてもその内部に入れないようにしました。



上空から見た基肄城跡

調べてみよう？
どうして山の上に城をつくったんだろう？



石塁 (水門跡・南門跡)

基肄城の中にある大きな谷の、南側の出口にある石塁で、長さ約26m、高さ約8.5m、上部の幅約3.3mほどが残っています。石塁には水門が築かれ、以前は南門もあったようです。水門跡は、城内の雨水が流れ込む住吉川の水を外部に流すために石塁の一部を貫き、長さ約10m、高さ約1.4m、幅約1mほどの大きさで、下流へ傾斜するようにつくられています。

東北門跡

城の東北にあたる位置につくられていた門で、両側に門柱の基礎石である門礎が残っています。

北門跡 (北門跡)

城の北にあたる位置にあり、大宰府からの正面玄関的な役割があったと考えられています。

大礎石群

城壁内に残る約40棟の礎石建物群の中で特に大きく、柱間が10間×3間あります。城内を一望できる場所にあることから、特別な役割があった建物だと考えられています。

白村江の戦いの敗戦をきっかけに築城

基肄城が築かれたのは、西暦665年のことです。現在の三養基郡基山町と福岡県筑紫野市にまたがる**基山**に築られました。九州北部や瀬戸内地方には、飛鳥時代から奈良時代ごろまでに築かれたとされる古代山城の跡が、多く見つかっています。

基肄城が築かれた理由は、大宰府を中心とした一帯を防衛するためとされています。7世紀後半、朝鮮半島にあった百済は、唐と新羅の連合軍に滅ぼされます。日本は、友好国であった百済の復興のため援軍を送りますが、西暦663年に大敗しました。これが**白村江の戦い**です。

日本は、逆に、唐と新羅から攻め込まれることを恐れ、大宰府を守るために一帯に**山城**や**水城**を築造しました。大宰府から見て博多湾側に開けた地に水城(堤防)、北側に大野城、そして南側にある基山に基肄城を築き、大宰府をぐるりと囲む形で防衛体制を整えたのです。

基山が選ばれた理由は、位置や眺望・交通の利

古代山城は、見晴らしのよい山に築られました。基肄城が築かれた基山の位置を見ると、その地の利が一目瞭然です。北に守るべき大宰府があり、南西が有明海、その向こうの雲仙まで見渡すことができます。このため、基肄城の役割は、主に、有明海からの敵に備えるものだったと考えられます。当時の連絡手段である**烽**(のろしのこと)による連絡網は、

当時の基山周辺



COLUMN

万葉集に見える基山の道

今よりは 城の山道は 寂しげむ
我が通はむと 思ひものを

大宰帥大伴旅人が奈良の都に帰ることになり、筑後守葛井連大成が詠んだ歌です。「私は心楽しく通うつもりでいたのに、あなたがいないのでこれから先は大宰府への城の山道は寂しいことでしょう」という意味。この山道は基肄城東側の山越えの官道だったと考えられます。



米倉礎石群

炭化米が出土したことから、米倉の跡であると言われています。

見晴らしがよい場所にあることが条件で、基肄城は最適な場所にありました。また、佐賀はもともと大陸と日本の交流の拠点でした。大宰府との位置関係や、見晴らしがよいこと、そして交通の要衝であったという好条件が、基山に基肄城が築かれた大きな理由です。

城の様式は「**朝鮮式山城**」と言われます。朝鮮式山城は、百済から来た城造りに詳しい高官の指揮のもとで造られました。基肄城は、基山からその東峰にかけて尾根や谷を囲み、基山の尾根線と3か所の谷に設けられた土塁や石塁でつながれた全長約3.9kmの城壁が、城内の施設を防備していました。尾根沿いの城壁は土を盛った土塁で、谷の部分は「**石塁**」(堤防状の壁)が築かれています。これまでの調査で、城壁には門が4つ、排水のための水門が4つあったことがわかっています。そのほか、城壁内には礎石がある40棟の建物跡が見つかっており、武器や食糧などを保管していたと考えられる多くの建物があったことも分かっています。

国づくりの始まりの地・佐賀

日本は大宰府を中心に北部九州の防衛体制を整えましたが、結局、唐



基肄城水門跡 水口の規模は国内最大級です。(基山町教育委員会提供)



(基山町教育委員会提供)

と新羅が攻め込んで来ることはありませんでした。それでも、西日本各地には山城がつくられ続けました。その中で、基肄城がつくられた理由は次のように考えられます。

一つ目は、万が一、唐や新羅が攻め込んで来たときに備えたということです。長い歴史を大きな視点で見ると、「戦いに備えた防衛」という役割

の一端を、朝鮮半島や大陸とのさまざまななかかわりの中で、基肄城が担うことになったということです。佐賀は古くから、大陸と朝鮮半島からの防衛も含め、人、文化、経済の重要な受け入れ口だったのです。

二つ目に、大宰府を中心とした北部九州の安定化のための役割

COLUMN

古代の連絡手段
烽(とびひ)

夜は火、昼間は煙を使って、遠くにいる人に危急を知らせる通信手段でした。「烽」は「烽火」とも書き、雨の日などには煙を用いました。

基肄城内での場所はわかっていませんが、烽を上げる場所があったと推測されます。



もあつたと考えられます。

基肄城がつくられたころから、大和政権の古代国家体制づくりが始まっています。山城をつくり続けることで、中央政権の強さを地方豪族に見せつける目的もあつたのかもしれません。この両面などから見て、基肄城は7世紀当時の歴史を考えるうえで貴重な史跡と言えるでしょう。

学校の取組

【基肄城に係る歴史を学ぶ】



小中学生へ配布している「ふるさと基山の歴史」という冊子を使って、基肄城に係る歴史を学んでいます。

調べて書いてみよう!

基肄城跡以外で大宰府を守るための城跡を調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



基肄城跡徒歩コース

現在、基肄城跡には、歴史に思いをはせながら歩くことができる徒歩コースが整備されています。礎石群などを見ながら歩く「史跡めぐりコース」は約2時間、気軽な登山気分を味わって歩く「登山道コース」は約40分で楽しむことができます。
(基山町教育委員会提供)



基山町立図書館

(三養基郡基山町大字宮浦 60-1)
基肄城の資料をはじめ、一年を通じて、様々な展示を行っています。
TEL 0942-92-0289 / 休館日 月曜日、祝日、年末年始 / 開館 8:00~18:00
(基山町立図書館提供)

検索してみよう!

- 大宰府の歴史
- 古代山城
- 佐賀県神籠石





今から約1300年前に書かれた『肥前国風土記』や奈良時代の歌集『万葉集』。これらの書物には今も残る地名の由来や、古代の人々の姿が書かれています。古代と今の佐賀を結ぶ時間旅行ができそうです。



武雄の大楠
武雄神社の御神木となっています。樹齢3000年以上と言われ、樹高30m、幹周り20mの巨木です。

調べてみよう?

県内の地名には、どんな由来があるのだろう？



「栄の郡」「賢女の郡」から生まれた「佐賀」

私たちのふるさと「佐賀県」の名前は、一体どうやって生まれたのでしょうか。その手がかりとなる記述が『肥前国風土記』の中にあります。「風土記」は、713(和銅6)年に出された元明天皇の命によって、諸国の地名や産物、語り継がれてきた伝承などをまとめた記録集です。各国ごとに作られましたが、国内で現存するものは、『肥前国風土記』など五つだけです。『肥前国風土記』には、「佐賀」の名にまつわる次の二つの逸話が登場します。

その昔、肥前国で巨大な楠の栄える様子を見た日本武尊(景行天皇の皇子)が、「この国は『栄の国』と言うがよい」と言ったことから「**栄の郡**」、そして「**佐嘉の郡**」となった逸話があります。もう一つは、佐嘉川(現在の嘉瀬川)の上流に荒々しい神がいたことによる逸話です。その神は往来する人々を苦しめていたため、この地域を治めていた大荒田という人が大山田女・狭山田女の二人の女性の言葉に従って祭事を行ったところ、その神は和らぎ、人々が安全に往来することができるようになったのです。この二人の女性は「**賢女**(賢い女性)」だということから、「佐嘉の郡」の名が生まれた



(佐賀県観光連盟提供)

とされる説です。

そのほか、『肥前国風土記』には、佐賀県内各地の地名の由来も記されています。

古代の社交の場、「杵島山の歌垣」

武雄市・杵島郡白石町・嬉野市にまたがる山は、総称して「杵島山」と呼ばれています。『肥前国風土記(逸文※1)』には、次のような、杵島山に集う古代の人々の姿が描かれています。

※1 かつて存在していた文章が佚われて、現在は一部のみ伝わっているもの。

杵島山の周辺の若い男女が、毎年春と秋の2回、酒を持ち琴を抱いて山へ登り、酒を飲み歌い踊っていました。そのときに歌われている一つに「あられふる杵島が岳を峻しみと草採りかねて妹が手を取る(杵島岳があまりにも険しいので、草をつかみながら登ろうとしていたが手が滑ってしまい、思わず恋しい人の手をつかんでしまった)」の歌があり、これは杵島曲と呼ばれています。このような風習を「歌垣」といい、

『肥前国風土記』に記載された地名の由来をいくつか紹介します。

とす さと 鳥櫛の郷	鳥栖市一帯
朝廷に貢ぐ鳥のための鳥屋(鳥を飼う小屋)に由来する	

ふじつ ごおり 藤津の郡	藤津郡
日本武尊が海岸(津)に船をお停めになり、翌朝、ご覧になったら船の綱を藤の蔓につないでいたことから	

みね さと 三根の郷	旧三根町
景行天皇が巡行した時に村の宿で「実に安らかに眠れた」とおっしゃって「御寐安の村」と名付けられたことから	

きしま ごおり 杵島の郡	武雄市一帯
景行天皇が乗った船が磐田杵の村に錨を降ろしたところ、船を繫いだカシ(杭)の穴から冷たい水が湧き出し、そこが島となり「カシ島」と呼んだことから	

おき ごおり 小城市の郡	小城市一帯
壘(土石を盛った砦)を築いて天皇に抵抗した土蜘蛛を日本武尊が討ち滅ぼしたことから	

たら さと 託羅の郷	多良町一帯
景行天皇が「この地は食物が豊かなので『豊足の村』と名付ける」と言われ、それがなまったことから	



歌垣公園・肥前犬山城展望所

歌垣公園は杵島山の中腹にあり、有明海まで一望に見渡せる景勝地でもあります。

古代の人々が歌に託して自分の思いを伝え、結婚相手を見つける場でした。

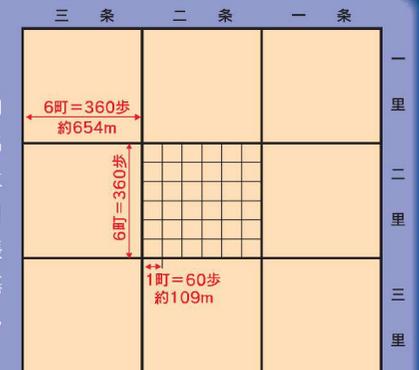
歌垣が行われたことが分かっているのは、この杵島山の歌垣を含め、全国で3か所だけです。そのため杵島山の歌垣は、現在の茨城県つくば市の筑波山・大阪府能勢町の歌垣山とあわせて「日本三大歌垣」と呼ば

COLUMN

今に伝わる 古代からの呼称「ケ里」

現在の神崎市や吉野ケ里町には枝ケ里、田道ケ里、駅ケ里、吉野ケ里など「ケ里」が付く地名が残されています。これは、古代に行われた土地を区画整理し管理するための制度「条里制」の名残だといわれます。条里制では、区画の長さの単位を1町、6町を1里1条としてそれが畷盤の目のように並ぶものとして土地を管理しました。

※座標法の違いにより、条と里が逆になることもあります。



COLUMN

「領巾振山」と呼ばれる
唐津の鏡山

せんかてんのう おおとりのま てひこ
宣化天皇2(537)年、大伴狭手彦(大伴佐提比古)が朝鮮半島出兵時に立ち寄った唐津の地で出会ったのが現在の^{きんぎょま}厳木町出身の^{まつうらさよめ}松浦佐用姫でした。二人は恋に落ちますが、やがて大伴狭手彦は朝鮮半島へと出陣します。

松浦佐用姫は大伴狭手彦の船が見える鏡山に登り、身にまとっていた領巾(肩にかけて左右にたらしめた布)を懸命に振ったとされます。その時から鏡山は別名「領巾振山」と呼ばれるようになりました。

万葉歌人山上憶良はこの伝説をもとに「遠つ人松浦佐用姫夫恋に 領巾振りしより負へる山の名」(松浦佐用姫が夫を恋慕って、領巾を振った時から名付けられた山の名だ)と詠みました。



松浦佐用姫像

出身地である厳木の道の駅には、松浦佐用姫の像があります。

れています。

万葉集に詠まれた肥前国松浦郡

『肥前国風土記』がまとめられたのとほぼ同時期の7世紀後半から8世紀後半にかけ、日本最古の歌集『万葉集』が編さんされました。4500首以上収録されている『万葉集』には、佐賀県内のことを題材にしたものが38首あり、そのうち、現在の唐津市や玄海町にあたる肥前国松浦郡に関する歌が、30首残されています。

728(神亀5)年4月に、大宰帥(大宰府長官)として筑紫に赴任した^{おおとりのたびと}大伴旅人は、松浦郡の歌11首を『万葉集』に残しています。大宰府の長官が遠い松浦郡まで足



万葉の里公園

写真の歌碑には下記のように詠われています。「玉島のこの川上に家はあれど 君を恥しみ顯さずありき」大伴旅人(玉島川の上流に家があるのですが、あなたには恥ずかしくて私の家だ、などと申し上げられません)

を伸ばしたのは、景勝地に遊びに来ただけではなく、国防の最前線に立っている防人の視察に訪れたためと考えられています。古代から松浦郡は朝鮮半島や中国大陸との接点として、大和朝廷にとって重要な場所だったのです。

学校の取組

【開校記念鏡山登山】

■佐賀県立唐津東高等学校

唐津東高校の開校を記念して、鏡山への登山を通し、郷土の地理・歴史・文化、自然に親しんでいます。



調べて書いてみよう!

県内の地名の由来や松浦佐用姫の伝説が詠われた和歌を調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



歌垣公園 (杵島郡白石町大字堤 3782)

240本の桜と7万本のツツジが植えられており、シーズンにはたくさんの花見客で賑わいます。

TEL 0952-84-7123

(白石町産業創生課提供)



万葉の里公園 (唐津市浜玉町浜崎 1901-389)

大伴旅人や山上憶良などの歌碑があります。

TEL 0955-72-9250

(唐津市観光課提供)

検索してみよう!

肥前国庁

肥前万葉集

佐賀 風土記

日本三大悲恋伝説





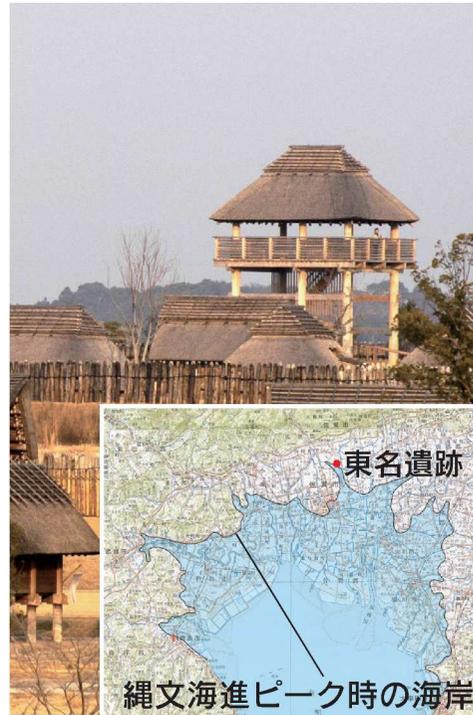
大昔、私たちの祖先がどのような生活していたのか…。佐賀県にある遺跡から、祖先の暮らしぶりを学ぶことができます。



吉野ケ里歴史公園 弥生時代の遺跡を発掘成果などをもとに復元しており、当時の生

約8000年の眠りから覚め 縄文の暮らしを教えてください東名遺跡

佐賀県で発見された国内最古の**湿地性貝塚**が、**国史跡**の**東名遺跡** (佐賀市金立町)です。縄文時代早期、今からおよそ8000年～7400年以前の遺跡と言われます。エジプトの古代文明の起こりがお



活の様子がわかります。

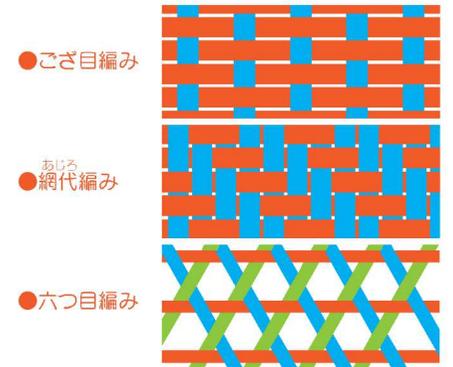
よそ5000年前ごろと言われているので、それよりも古い遺跡だということが分かります。そのころの佐賀平野は、氷河期が終わって温暖化が進んだため海水面が上昇する「**縄文海進**」の時期にあたり、海岸線が山のすぐ近くまで迫っていました。東名遺跡は、現在の海岸線から10数kmも内陸にありますが、当時は海に面した河口にあったのです。



(佐賀市教育委員会文化振興課提供)

東名遺跡から出土した大型編みかご (高さ88cm) 口の部分がすぼまり底の部分がふくらむような形をしており、運搬や貯蔵用に使われたと考えられています。東名遺跡からは大小さまざまな編みかごが出土しています。その編み方も多様で、現在も使われている編み方が既にこの時代からありました。(写真は復元した編みかご)

東名遺跡から出土した編みかごの編み方の例



東名遺跡からは、当時の有明海周辺に生息していた貝や動物・魚類などの骨、土器、石器、骨角製品、木の実、木製品などが多数出土しています。なかでも木編みのかごは700点以上発見されており、国内最大の出土数であるほか、その製作には、縄文時代の優れた加工技術が生かされています。遺跡から発見された出土品の分析を通じ、ここに住んでいた人々が、魚介類を採集し、シカやイノシシなどの狩猟を行うとともに、冬に備えてドングリを貯蔵していたことが分かりました。貝のプレスレット（貝製腕輪）などの装飾品を身に付けていたことも分かっています。

その後、海水面はさらに上昇し、人々は東名から別の場所に移住したと考えられています。残された生活の痕跡は、約8000年後の2003(平成15)年、工事中に地下5mのところから偶然発見されました。「縄文海進」が進んだ後も、水を通しにくい粘土層に覆われていたため、縄文時代の生活ぶりがそのままパックされた状態で残されていたのです。しかも、東名遺跡は湿地にあったため、通常の遺跡では発見されない植物質や木製品などが水に浸かり、当時の形を保ったまま残っていました。湿地性の貝塚という、東アジアで極めて珍しい東名遺跡は、縄文時代の高度な技術や文化を現代に鮮やかによみがえらせたのです。



菜畑遺跡復元水田

(唐津市教育委員会提供)

日本最古の水稲耕作遺跡です。

日本最古の水稲耕作遺跡 菜畑遺跡

1979(昭和54)年、唐津湾に面した丘陵地帯で道路工事中に発見された国史跡の**菜畑遺跡**(唐津市)は、海拔10m前後のゆるやかな斜面にあります。菜畑遺跡は、縄文時代後期を中心に、縄文時代

前期から**弥生時代**中期にかけての時代の痕跡が認められています。

その中で注目されたのが、縄文時代晩期^{*}の地層から見つかった**水田遺構**です。水田遺構は、およそ3000年～2300年前のものともみられており、現時点では国内最古のものです。菜畑遺跡の水田遺構の発見により、それまで考えられていたより古くから、稲作が始まっていたことが証明されました。遺跡からは、炭化米のほか、稲作に

用いられた木製・石製農具が発見されています。また、東名遺跡から発見されたような狩猟、採集といった縄文文化の痕跡も見つかっています。菜畑遺跡は、縄文から弥生へと時代が移り代わる時期の解明に、大きな手がかりを残しているのです。

※縄文時代の時期区分として、縄文時代晩期は弥生時代早期と呼ばれることがあります。

古代史の謎に迫る吉野ヶ里遺跡

吉野ヶ里丘陵(現在の神崎市・神埼郡吉野ヶ里町)では、古い時代の遺跡から見つかる銅剣や貝を加工した腕輪などが出土していました。1970年代には、県内の文化財関係者たちの地道な調査によって、広い範囲から土器、石器、甕棺などが発掘されるようになりました。

1986(昭和61)年、当時、吉野ヶ里丘陵に工場団地の計画がもち上がったため、発掘の調査が実施され、吉野ヶ里丘陵一帯に広大な遺跡が眠っていることがわかりました。1989(平成元)年2月には、吉野ヶ里

COLUMN

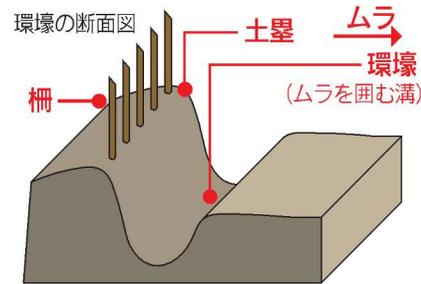
邪馬台国のカギは吉野ヶ里？

3世紀末に中国で書かれた歴史書『魏志倭人伝』には、日本列島に女王卑弥呼が治める邪馬台国があることが書かれています。しかし、所在地については、九州説、畿内説の両方あり、現在までも決着がついていません。

吉野ヶ里遺跡で発掘された遺構が『魏志倭人伝』に記載される施設の様子に類似していることから、吉野ヶ里遺跡は邪馬台国の謎を解くカギといわれます。



丘陵で大規模な環壕集落跡が発見されました。日本古代史を解明するカギをにぎる吉野ヶ里遺跡が、私たちの前に姿を現したのです。



吉野ヶ里遺跡は、およそ800年※続いた弥生時代(紀元前5世紀～紀元3世紀ごろ)の国内最大規模の環壕集落跡であり、小規模な集落が地域の中心的集落へと発展していく姿を残しています。

吉野ヶ里遺跡の環壕集落は、弥生時代前期後半(紀元前3～紀元前2世紀ごろ)には25,000㎡程度になり、中期(紀元前2～紀元前1世紀ごろ)にはさらに拡大します。この時期には、3,000基を超える甕棺墓が見つかっています。また、歴代首長(指導者)を埋葬した巨大な墳丘墓が発見され、ここからは、埋葬者の身分の高さを示す銅剣やガラス管玉なども発掘されています。

弥生時代後期(紀元1～3世紀ごろ)になると、環壕集落は約40万㎡(サッカーグラウンド56個分)の規模に発展したとみられます。環壕集落内部には、内壕や土壘、柵で囲まれ、物見櫓が建てられている南北二つの内郭と呼ばれる空間があります。厳重に守られた北内郭は、祭殿と考えられる大型建物が存在することなどから、祭祀の場と考えられます。一方、南内郭は、首長たちの「居住区」であったと想定しています。また、物資を集積したと考えられる高床倉庫の跡も数多く存在していました。当時は、青銅器、鉄器、木器、絹布、麻布などの手工業が営まれ、外部との交易も行われていました。吉野ヶ里遺跡は、神埼地域の「クニ」の中心地＝拠点集落だったということをおうかがわせます。また、吉野ヶ里遺跡の集落構造には、同時代の中国の城郭の影響がうかがえます。

吉野ヶ里遺跡は、大陸文化とのつながり、日本の古代国家形成の過程、

さらには、『魏志倭人伝』に登場する卑弥呼が治めていた邪馬台国の謎を解明するための重要な遺跡なのです。

佐賀県には、古代の人々の生活を知ることができる貴重な遺跡が数多く残されているのです。

※最近の研究で、弥生時代の始まり(開始時期)を紀元前10～9世紀とする説があります。

学校の取組

【イベントボランティア】

佐賀県立神埼清明高等学校

吉野ヶ里歴史公園内でのイベント運営に携わりながら、地元の魅力をたくさんの来場者にお伝えしています。



調べて書いてみよう!

みなさんの住んでいる地域にはどんな遺跡があるでしょうか。調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



東名縄文館 (佐賀市金立町大字千布/巨勢川調整池内)

出土遺物やパネルの展示がされています。東名遺跡隣の巨勢川調整池佐賀導水管理棟にあります。

TEL 0952-40-7109 / 休館日 月曜日

開館 10:00～16:00 (入館は15:45まで)

(佐賀市教育委員会文化振興課提供)



末盧館 (唐津市菜畑3359-2)

菜畑遺跡から出土した貴重な資料が展示されています。

TEL 0955-73-3673 / 休館日 月曜日、年末年始 / 開館 9:00～17:00

(唐津市観光協会提供)



吉野ヶ里歴史公園 (神埼郡吉野ヶ里町田手1869)

弥生時代の施設の復元や発掘物の展示がされていて、弥生時代を体感できます。

TEL 0952-55-9333 / 休園日 12月31日、1月の第3月曜日とその翌日 / 開園 9～5月 9:00～17:00、6～8月 9:00～18:00

(佐賀県文化課文化財保護課活用室)

検索してみよう!

佐賀県の文化財

佐賀県遺跡

佐賀県遺跡地図



あ 知ってる!

佐賀県東部にあった対馬藩田代領で盛んだった売薬

現在の基山町と鳥栖市東側半分の地域は、1599(慶長4)年に対馬藩の所領となりました。江戸時代になると日本と朝鮮の国交回復に尽力した功績によりさらに石高が増加しました。

この地で作られる薬は、朝鮮人参などを主な原料としていました。一時、農業がおろそかになるとして売薬が禁止となりましたが、1788(天明8)年には許可証が与えられ、業者は領外にまで行商に出ていました。薬の販路は鹿児島藩を除く九州全域となり、越中富山の薬売りと競い合ったといわれます。